

苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和2年7月22日

苫小牧市図書館協議会 会長 松井 操人

<総評>

令和元年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、新型コロナウイルス感染症に大きく影響を受けたものであったと感じています。しかし、中でもレファレンスの受付件数が増加し、「ブックちゃん」の貸出数や郷土行政資料の蔵書冊数は目標値を達成しています。1月までの取組状況は順調で、利用者満足度が過去最高の数値になったことから、職員に対する市民の評価が高い状態が続いています。書籍消毒機の更新や館内照明のLED化など、館内の環境改善を行ったことや、年金セミナーや児童作家の講演会を複数回行うなど、工夫した取組も評価できます。学校や苫教研学校図書館部会との連携が活発で、小中学校への充実した取組が、「ブックちゃん」の貸出数にも表れていると考えます。引き続き連携を深めていただき、全ての学校に関わりながら子どもの読書活動を支えていただきたいと思います。

郷土行政資料については、目標値を達成できたことは評価しますが、昨年の総評でも指摘したとおり、郷土資料の周知・活用を行い、引き続き市民に広く知っていただく努力を行っていただきたいと思います。

児童貸出冊数については、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮してもやや少なく、若年層へのサービスの周知については、具体的な内容を示しながら取り組んでいただきたいと思います。また、臨時休館中はサービスがほぼ停止しており、イベントや研修などが中止になってしまったことは残念に思います。情報発信や開催方法に工夫が必要であったと感じています。延期になった事業については、次年度の開催に期待します。電子図書館は、新型コロナウイルス感染症収束後の新しい生活様式の中で利用の増加が見込まれますが、「インターネットの利用」という点で子どもたちには長時間の使用を推奨しにくい点と、パソコンやスマートフォンを利用しない世代が一定数いると考えられる点から、非来館型サービスには電子図書館以外の方法も検討する必要があると考えます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、更なる図書館運営の充実に努めてください。

「運営計画 1 基礎的な図書館サービスの充実」について

【評価する点】

- ・書籍消毒機の更新は時宜にかなった導入で大変良かったと思います。結果論ではありますが大活躍しており、今後も利用の増加が予想されることから、利用者へ積極的にアピールするとともに、ひと組が長時間利用することがないような工夫が必要になるかも知れません。
- ・選書選定委員会を設置して週 1 回という頻度で開催している点を評価します。また、これからの資料の充実に期待します。
- ・レファレンスサービスの件数増加や色々な利用者のための環境整備が進み、広く市民に親しまれる図書館にするための努力と成果を感じています。特に乳幼児・保護者への配慮と工夫が空間に出来ていたと評価します。
- ・郷土行政資料の収集が順調で、目標値を達成できたことは良かったと思います。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う休館や事業の縮小は致し方なく、コロナ以前の 1 月までの取組状況は順調だったので、その点は評価したい。
- ・貸出冊数や利用人数など統計的な数字も、1 月まで順調だったとすれば大きく評価したい。

【改善を要する点】

- ・コロナ禍の影響により、閉館がサービス提供のほぼ停止とイコールになったことは、今後の課題であると考えます。ネット社会とは言え、閉館とともに図書館と関われない市民がまだまだ多いことを実感しました。情報発信の方法等に工夫が必要だと感じており、図書館情報誌「ぱびるす」の設置個所を増やす(変える)など、せめてもの応急対応があったのではないかと考えています。
- ・子育てタイムが実施できなかったのは残念です。ただし、従来の図書館の概念にこだわる利用者からの苦情への対応もよく検討していただきたい。
- ・貴重な郷土資料の周知・活用を、もう少し行ってほしいと思います。
- ・トイレのウォシュレット化は以前から要望が多いように思います。優先度が高くないのは理解できますが、何とか改善できればと思います。

「運営計画2 家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

【評価する点】

- ・常に新しい学びに積極的であり、得たものを図書館運営に反映してくださる体制は、すばらしいと思います。
- ・開館日数が大幅に減少したにも関わらず、レファレンスの件数が目標を達成している点を評価します。
- ・レファレンス件数の増加は、職員の方々の日々の研修や利用者の方々への対応の充実の成果だと感じます。
- ・実際にレファレンスを利用し、良い本選びが出来ました。これからも利用者の助けになるように研修を続けていただきたいです。
- ・レファレンス受付件数の増加は、数値目標にも掲げ力を入れたことと思いますが、利用者のレファレンスへの認知度も高まったものだと思います。
- ・外部団体との連携で図書館が核となり、市民と地域、行政などの結びつきを作ったことは、大きな成果だったと思います。
- ・「図書館 de 年金セミナー」など、従来の概念にとらわれない講座を開催している点を評価します。関係機関の主催ではなく、図書館が開催することで、利用者にとって敷居が低くなり参加しやすくなることは有意義だと思います。
- ・開かれた図書館としての新たな取組については、視点を少し変えることで足を運ぶ利用者も増えることになると思います。
- ・COVID-19により実施できなかった ICT 活用講座を除き、すべての事業が実施され、その成果がみられることは高く評価できます。

【改善を要する点】

- ・研修は一定の場所に集合せずとも行う方法があると思います。いくつかの貴重な学びの機会が「中止」になってしまったことは残念です。工夫する必要があると感じます。
- ・「図書館は静かに本を読む場所」という固定概念を変えるという点は賛成ですが、一般にはなかなか変わらない気がするので、工夫と努力に期待します。
- ・関連する資料などの展示。紹介によってすぐに見ることができるメリットを活かしてほしい。
- ・レファレンスの敷居を低くするためにも、市民の事例をたくさん紹介し、「こういうことを尋ねてもいいのか」と思わせるようにしてほしい。

「運営計画3 教育的役割を重視した取組の推進」について

【評価する点】

- ・ブックちゃんの貸出件数が達成率 131%と目標を大きく上回っている点を評価します。
- ・絵本作家・児童文学作家を3名も招いて講演会等を開催できた点を評価します。他図書館等から情報を得て、経費も抑えて実施するなど見事です。
- ・乳幼児・小中学校への取組は、講演会や団体貸出セット「ブックちゃん」など充実していると思います。
- ・幼児への貸出が毎年一定数あるのは、赤ちゃん時代から働きかけているためだと思います。乳幼児に対する事業等には、これからも力を入れていってください。
- ・若い世代の情報源がIT時代の中、本という文化を広めるための活動取組への難しさはありますが、様々な推進事業やアイデアはすばらしいと思います。
- ・学校や苦教研学校図書館教育研究部会との連携が活発で良いと思います。

【改善を要する点】

- ・学校図書館は子どもの読書活動において重要だと考えていますが、市内各校の取組にばらつきを感じています。回数が少なくても、図書館が全ての学校に関わることがとても大事なことだと思っています。
- ・「調べる学習コンクール」は、どれも素晴らしい出来栄でした。可能なら、子どもたちが自分の学習成果を聴衆の前で発表する機会があると、子どもたちにとって良い経験になるのではないかと思います。
- ・開館延期になっている「ウポポイ」関連の取組を検討していただきたいです。
- ・今年度実施できなかったYA図書館交流事業やビブリオバトルを楽しみにしています。また、成人に向けた読書環境支援もどのような形になるのか期待しています。
- ・児童貸出冊数が、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しても達成率84.7%というのはやや少ない気がします。3月の休館が影響しているだけであればいいのですが、前年度の月別利用者数と比較すると、減少した要因がより詳細に分かるかも知れません。

「運営計画4 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

【評価する点】

- ・「利用者要望の把握と実現」に関しては、ひとつひとつ丁寧に行っていると感じています。
- ・利用者満足度が過去最高であり、職員に対する一般市民の評価が高い状態が続いていることは大変素晴らしいことだと思います。
- ・アンケートにも多々ありましたが、職員の接遇向上については、利用者が一番感じるどころであり、皆さんの対応によって安心した利用へとつながっていると思います。
- ・館内照明のLED化によって電気料金を半減させている点を評価します。
- ・webサイトのリニューアルを行った点を評価します。
- ・新規利用登録者に自動的に電子図書館の利用権（パスワード）を与えるようにしたことは利用拡大につながると思われることから評価します。
- ・電子図書館、ホームページ、デジタルコンテンツは、新型コロナウイルス感染症収束後の新しい生活様式を考えると利用増が大いに期待できます。より一層の内容充実を期待します。

【改善を要する点】

- ・「アウトリーチ」については、周知が足りていないのではないかと感じています。せっかくの力を、もっと市民に啓発・拡散してほしいと思います。
- ・既登録者の電子図書館利用拡大の方策はどうするのでしょうか。IDは統合されたのでパスワードの付与をどうするかが疑問です。そもそも利用登録の期限（更新）がないことがネックであり、実在しない登録者がかなりいるのではないかと思います。
- ・非来館型サービスとして電子図書館以外のサービスの方法は検討とありますが、パソコンの無い世帯、使えない世代が一定数いると考えられますので、是非検討していただきたいです。
- ・個人情報については更なる配慮のものと運営をお願いいたします。
- ・若い方、特に7歳から12歳、23歳から29歳までにどのようにサービスを周知していけるかが課題だと思います。取組状況に随時とありますが、具体的内容を示していただきたいです。やって効果が薄いのなら、内容について再考してみてもどうでしょうか。
- ・電子図書館は「インターネットの利用」という点で、長時間の使用を推奨しにくいです。